

献 辞

杉田俊明先生は、1994年に立命館大学大学院国際関係研究科修士課程を修了され、また、商社およびコンサルタント会社での経験を経られて、1998年に甲南大学経営学部の助教授に、「アジアビジネス」（現「アジア経営論」）の担当として着任されました。その後、2004年に教授に昇進され、専門科目としては、同年から大学院修士課程における「アジア経営論特論」と「アジア経営論特殊講義」、また、2006年からは大学院博士後期課程における「アジア経営論特殊研究」も担当されつつ、25年間にわたるご勤務を経て、2024年4月に定年を迎えられました。この間、研究、教育、行政、そして社会的な活動の各方面において多大な活躍とご貢献をしてこられました。

先生は、グローバル経営に関する数多くの研究成果を残し、その発展に大きく貢献してこられました。先生の研究の特徴は、理論研究をベースとしつつ、それらの理論とフィールドリサーチと結合することで、グローバル経営における諸課題を経営戦略の視点から分析するとともに、課題解決のための現実的な提案を試みられる点にあります。

その具体的な成果の1つが、先生による単著書『中国ビジネスのリスク・マネジメント』（ダイヤモンド社、1996年）です。本書は、日本における中国ビジネスの分析とその対応における戦略や実務に関する体系書の草分けとなるものでした。出版当時、中国ビジネスが隆盛となる一方、その実態が分からず苦戦する企業が相次ぐ中で、本書は高い評価をもって受け入れられました。

この研究をはじめ、アジアビジネスを中心としたフィールドリサーチをベースに、グローバル経営の現場に深く入り込み、経営者等とも直接に対話を重ね、その状況をつぶさに分析・記録し、戦略提案を含む研究成果を実践

的に広くフィードバックしていくというアプローチにより、内部化や戦略提携関連理論、市場参入モード等に焦点をあてた多国籍企業の戦略行動等に関する数多くの研究を深められました。このような先生の研究は、学术界はもとより、日本企業のみならず、グローバル企業からも大きく注目されるものでした。

また、学术界においては、「多国籍企業学会」、「中国経営管理学会」（現、「中国経済経営学会」）、「国際ビジネス研究学会」等の関連学会の理事や幹事等の要職を務められました。ご自身の研究とあわせ、学术界への発展にも多大な貢献を果たしてこられています。

そして、先生は、その独創的かつ先進的な研究を、教育にも大きくつなげてこられました。まず、強調されるべきは、日本の大学におけるアジア経営領域の教育を拓かれたということです。本学でも、それまでの国際経営関連領域の科目は欧米の理論や企業に限られていましたが、先生をお迎えすることで、アジア経営も加えた国際経営領域の教育体制が築かれることとなりました。

そのうえで、先生は、グローバル企業に協力を得た企業内研修や、経営管理者を大学に迎えての講義など、理論をベースにしつつリアルな企業経営の実態解明と課題解決策を探求するというアプローチを色濃く反映させた教育の提供を実現されました。これらは、個々の学生の学びはもとより、甲南大学の教育研究の水準の向上および名声の向上に貢献するものでした。

こうした研究教育へのご貢献の一方で、先生は、大学の管理運営に関しても多くの役割を担い、甲南大学の発展に多大な貢献をしてこられました。その1つが、先生の研究経験や資源を活かした国際交流関連事業への取り組みです。国際交流センター副所長の任にあたり、中国および台湾エリアにおける姉妹校の提携、あるいはゼミで培われた海外研修手法の全学的な導入を実現されました。それが、現在のエリアスタディーズの展開等にも繋がってい

ます。

そして、先生は、大学のみならず、数々の社会貢献活動や公的機関での任を果たしてこられました。例えば、経済産業省近畿通産局における中国ビジネスアドバイザーリーボードメンバー、東京商工会議所における国際経済委員会ワーキンググループ中小企業国際化支援委員会座長、大阪商工会議所における国際ビジネス委員会委員、日中経済協会における関西本部専門委員、中小企業基盤整備機構（前中小企業事業団）における海外投資アドバイザーなどがそれです。さらには、先生の卓越した中国語能力のもと、グローバル経営と上級語学講座を織り交ぜたNHK放送講座の講師なども務められました。これらのご活躍は、先生の研究成果を社会に還元することで社会貢献を果たすということはもちろん、甲南大学の社会的評価の向上にも貢献するものです。

こうした杉田先生のこれまでの多大なご貢献に対する深い敬意と感謝の気持ちを含めて、ここに本号をご退任の記念論集として編纂し、献呈させていただきます。先生の今後の益々のご健勝とご活躍を、学会員一同心よりお祈り申し上げます。

甲南大学経営学部長

甲南大学経営学会会長

高 室 裕 史